

令和2年度 埼玉県農業大学校評価システムシート

教育方針	1 農業経営に必要な技術と知識を備えた実践力のある人材の育成 2 グローバルな視点と企業的経営感覚を身につけた人材の育成 3 地域の農業をけん引するリーダーの育成
------	---

教育方法	1 課題解決型学習を基軸として実践教育を行う 2 講義、実習、農家研修を効果的に組み合わせて各人の能力に応じた教育を行う。 3 農業法人経営者、流通販売企業家など第一線の外部講師を活用する。 4 農業経営者育成のためのカリキュラムを編成し必要な免許・資格取得を進める。
------	---

重点目標	1 入学予定者の定員確保 2 次代を創造する農業者の育成 3 学習・生活環境の確保 4 生徒の意向を踏まえた進路指導
------	---

達成度	A	達成(100%以上)
	B	概ね達成(80~99%以上)
	C	不十分(80%未満)

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 (3 月 3 日 現 在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 県内外を問わず、本校を広く紹介することで、入学定員を確保することができた。しかし、高い農業技術や経営感覚を身に付ける指導を実践している教育機関として、高校や地域社会における認知度が未だに低い。 【課題】 本校の教育活動について、積極的にPRするとともに、新しい入試制度の周知を図り、入学定員の確保を継続する。さらに新型コロナウイルスの影響に対応した生徒募集を実施する。	入学定員90名の確保	①高校案内の充実 ・延べ200校への案内 ・隣接1都5県への案内 ・HPによる案内の充実 ②入学説明会の実施 ・7回 ③高校進路指導担当者対象入試説明の実施 ④県内農業関係高校生対象体験実習の実施 ・2回 ⑤地域及び関係機関との連携 ・各種イベントへの参加 ・農林振興センターとの情報交換	①例年と同等のアプローチができたか。 ②入学定員を上回る受験希望者の参加があったか。 ③計画どおり実施できたか。 ④受験希望者の増加につながったか。 ⑤現役高校生以外へも積極的な情報発信ができたか。	入学定員90名を確保できた。 ①県内外588校への募集資料の送付と県内200校への電話連絡、県内農業関係高校9校の訪問、高校進学説明会への出席13校、HPによる情報発信51回 ②214名の参加があった。 ③コロナ禍により実施を見合わせた。 ④県内農業関係高校生対象体験実習参加者の中で、受験資格を有する者16名中7名が入学予定 ⑤新型コロナウイルス感染防止観点から各種イベント等の参加は自粛した。	A	【課題】 入学定員の確保 【改善策】 コロナ禍の中、情報提供について、高校生や大学・社会人へさらなる工夫・改善に取り組む。
2	【現状】 高度な農業経営の実践者を育成するために、経営力や技術力の習得を図る教育水準の向上が求められている。 【課題】 先端技術の導入や環境への配慮等時代の変化に対応した農業技術を導入するとともに、導入した技術を活用した授業の充実を図り、先進的な農業体験活動を展開する。	①栽培施設に導入した先端技術装置（スマート農業化機器）の維持管理	①栽培施設に導入した先端技術装置を活用した授業の実践	①先端技術の活用による栽培管理の成果があったか。 ②データ計測・分析方法の指導や先端技術活用全般に関する講義の実施	先端技術装置を活用した授業が実践できた。 ①先端装置導入により高い設定値の目標収量を設定したが、達成できる予定である。 ②外部講師による環境制御の授業を3回行った。	A	【課題】 今後多くの専攻にて先端技術を導入し授業に関連付ける。 【解決策】 民間企業や外部講師との連携とスマート農業の推進をする。
		②先進的農業体験活動の実施	①新規就農希望者支援 ・チャレンジファーム及びチャレンジカンパニーの実施 ②先進農家体験活動の実施 ③農業認証取得のノウハウを生かした農業実習 ・埼玉県優良生産管理農場 ・有機JAS認定	①チャレンジファーム及びチャレンジカンパニーが計画どおり実践できたか。 ②先進農家体験活動が実施できたか。 ③認証基準に沿った農業実習ができたか。	コロナ禍の中様々な工夫をし、実践することができた。 ①ほぼ計画どおり実践した。特にチャレンジカンパニーでは、年末年始に直売を合計4日間実施し前年比210%売上げた。 ②50名9/2から9/30の学習日程で実践し完了、例年の1/3以下の期間での実施となってしまった。受入農家からは、概ね良好との評価を受けた。 ③認証基準に沿った農業実習を行うことができた。継続して有機JAS認証を受けた。	B	【課題】 考えて実践できる生徒の育成 【解決策】 先進的農業体験活動の必要性及び重要性を生徒に徹底的に指導する。
3	【現状】 近年実験・実習における事故はほぼゼロであり、授業の体制、施設や設備など、生徒が実習や学習に取り組む環境の整備は着実に進んでいる。 【課題】 農作業や農業実験を行うにあたり、扱いや操作を間違えると大きな事故につながる器具や装置、機械があり、生徒が安心安全に学習に取り組む環境を維持する必要がある。さらに新型コロナウイルス感染予防に対応した教育環境の構築も進める。	農作業実習中の事故ゼロ及び、新型コロナウイルス感染予防	①安全指導の徹底	①実験・実習時に安全指導が行われたか。	感染対策を徹底した。また農作業実習中の事故等をゼロに抑えることができた。 ①実験・実習時における事故はゼロであった。	A	【課題】 農作業実習中の事故ゼロと新型コロナウイルス感染防止 【解決策】 農作業に慣れていない生徒に対し、きめ細やかな指導を行う。また、新型コロナウイルス感染防止の徹底と感染対策マニュアルの定期的な更新をする。
			②日常的な施設・設備の点検	②施設・設備の点検・整備が行われたか。	②販売実習棟及び実習施設を適切に管理し、農業機械の点検整備や運転操作の支援も適切に行い事故は無かった。 ③5/19～5/29までの延30時間をインターネットを介した遠隔授業を行った。また、6/1以降も前後期合わせて15講座をICTを活用して、複数の教室に配信した分散授業形式で行った。 ④新型コロナウイルスにおける感染対策マニュアルを作成し、感染対策を徹底している。		
4	【現状】 農業自営を土台とした教育活動を展開してきた中で、近年、農業生産法人や関連産業への就職希望者が増加している。 【課題】 新たな教育課程による就職指導を深化させ、生徒の就業意識向上を促す。また、非農家出身者の進路（就職先）を確保するとともに、就農、就職後に必要な農業関連資格を取得させる。	進路決定率100%	①進路指導	①生徒のニーズに対応した進路指導が行えたか。	進路決定率ほぼ100%を達成した。 ①コロナ禍コース別進路学習は、ある程度計画を変更しながら柔軟に実施した。生徒の満足度は95%であった。	A	【課題】 進路決定率100% 【解決策】 生徒の進路意識を高め、ミスマッチのない指導を構築する。
			②資格取得	②卒業までに農業に関する資格を1つ以上取得できたか。	②農業機械に関する資格取得について、1人平均1.5個の資格を取得することができた。		

学 校 関 係 者 評 価
実施日 令和3年3月22日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で入学者数を確保できたことは、関係者の方々が課題をクリアするために様々な工夫と対策をしたことがこのような大きな成果となったと考える。また、進学説明会への教務職員派遣や校長自ら高校訪問をするなどの定員確保に努めたことも評価する。 ・大学校を認識していない高校教員が多いので、高校への直接案内は大切である。生徒募集はそのまま続けていただきたい。 ・県内農業高校対象体験実習参加者の約半数が入学予定とのこと、今後もできるだけ多くの体験実習を開催していただきたい。 ・現役高校生の上級学校への進学については、進学先を直接見る機会を設ける必要がある。今後可能な限り設けてほしい。 ・今後とも引き続きSNSなども利用してより大学校を発信していただきたい。 ・全般的に他にない実践的な教育現場なので、メディアを使ってもっとアピールすべきだ。 ・先端技術を活用した授業は、新しい農業を知るためには欠かせないものであり積極的に活用してもらいたい。 ・ますます農業に対するワクワク感・ドキドキ感がある先端技術を活用した授業を取り入れていただきたい。 ・最先端を活用した授業の実施はこれからの農業や卒業後の進路を考えた時に重要である。また、先端技術に触れることで、新しい農業の形に期待し夢を持つ若者は多いと思う、卒業生がこれらの技術を実際の経営に生かせるよう期待する。 ・生徒が主体的に取組めるプログラムは大変魅力があると思います。今年度はコロナ禍で短い期間ではあったが実施できたよかった、今後も継続されることを期待する。 ・現場体験で農家からの技術習得と共に様々な人間の助言などが受けられることは、あらゆる可能性があり極めて重要なことである。 ・生徒には多く履修させる事から将来への大きな体験となり、卒業後の現場に出てから役に立つと思う。 ・農業を通して生きる力を学ぶ、つまり人間力・学問の向上を期待する。 ・専門性の高い機器の消毒や事前の点検・整備を徹底するなどしっかりとした対策をした結果の事故ゼロは評価できる。引き続き、安全環境の維持をお願いしたい。 ・安全であることが当たり前になるように、常に繰り返し、行動で覚えてゆくことは大変重要なことと思います。引き続きの指導をお願いする。 ・慣れからくる事故は一番危険である。注意することも忘れないでほしい。 ・機械を日常的に整備することで農機具等の長寿命を計ることができる。このことからコスト削減と経営安定につながるのではないかと。 ・コロナ禍で新しいスタイルの学習形態もとられたようだが、良い面は積極的に導入してもらいたい。 ・社会状況から進路活動が不十分な状況であったと想像される中、進路決定率が高く、また学生の満足度が高いのは良い取組が行えた結果であると評価する。 ・資格取得は生徒の進路へのモチベーションを高め、卒業後の即戦力化に繋がる重要な要素なので、より多くの資格取得に向けた取組を期待する。 ・資格取得するときに合わせて各種農業関連機械の特性を習得できるメリットがある。 ・将来使わない資格でも取得までの過程が大切である。一人2つ以上の取得頑張してほしい。 ・進路指導において柔軟な対応は極めて重要である。生徒達は日々悩み考えているものであるのできめ細やかな指導の徹底をお願いしたい。